



12

停滞感がないですか？

日本の社会、世界、そして、
キリスト教界…。

世界的停滞期にある私たち

13

停滞の時代を生き残るために

①信じる者は、なお守られる
40:1～12

②不信仰者への裁きは終わらない
40:13～41:18

③停滞の時代を生き残るために

聖書 新改訳2017 ©2017 新日本聖書刊行会 許諾番号4-1062-2

サマリヤ

14

■イスラエル王国は、偶像礼拝のゆえに南北に分裂。
主は多くの預言者を遣わしたが、民は背きを重ねていった。

■北王国は、BC722年、アッシリアによって滅亡。
残る南王国も、バビロニアに滅ぼされ、エルサレムの民の多くは、強制連行された。(バビロン捕囚・BC586)

バビロンの陥落

15



16

①信者の守り 捕囚の民の間で 40:1

【主】からエレミヤにあったことば*。バビロンへ引いて行かれるエルサレムとユダの捕囚の民の間で鎖につながれていたエレミヤを、親衛隊長ネブザルアダン*がラマ*から釈放した後のことである。

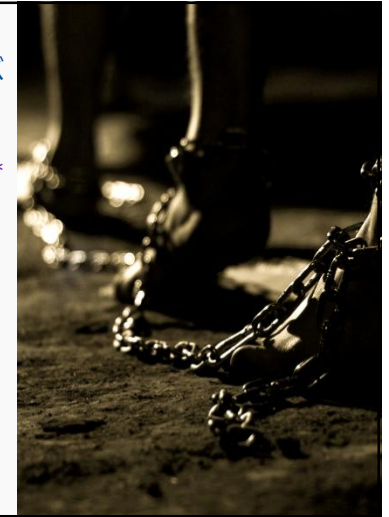
*異邦人の隊長を通して語られた

*“ネブが種を与えた” …捕囚を実行。

ネブカドネツアル王の忠実な家臣。

*捕囚民が集められた、別れの地。

(エレミヤ31:15 マタイ2:18)



17

①信者の守り 親衛隊長 エレ40:2～3

親衛隊長の長はエレミヤを連れ出して、彼に言った。「あなたの神、【主】は、この場所にこのわざわいを下すと語られた。

そして【主】はこれを下し、語ったとおりに行われた。あなたがたが【主】の前に罪ある者となり、その御声に聞き従わなかったのだ、このことがあなたがたに下ったのだ。

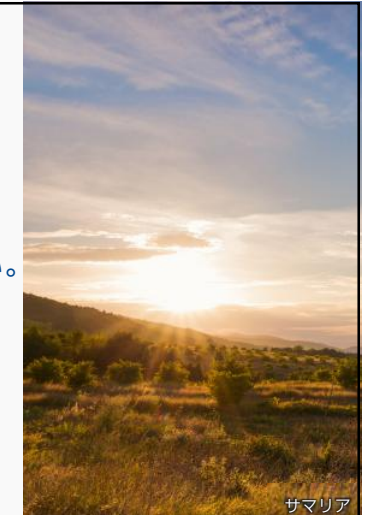
■ネブカドネツアル王にも、主が、イスラエルへの裁きを告げられていた。



18

①信者の守り 解放の宣言 40:4

そこで今、見よ、私は今日、あなたの手にある鎖を解いて、あなたを釈放する。もし私とともにバビロンへ行くのがよいと思うなら、行きなさい。私があなたの世話をしよう。しかし、もし私と一緒にバビロンへ行くのが気に入らないなら、やめなさい。見なさい。全地はあなたの前に広がっている。あなたが行ってよいと思う、気に入ったところへ行きなさい。」



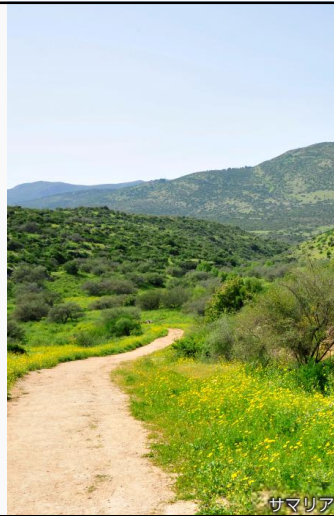
19

①信者の守り 釈放 エレ40:5

しかしエレミヤがまだ帰ろうとしないので、「では、バビロンの王がユダの町々を委ねた、シャファンの子アヒカム*の子ゲダルヤ*のところへ帰り、彼とともに民のうちに住みなさい。でなければ、あなたが行くのによいと思うところへ、どこへでも行きなさい。」こうして親衛隊の長は、食糧と品物を与えて、彼を去らせた。

*“私の兄弟は立ち上がった”

*“主は偉大”



サマリア

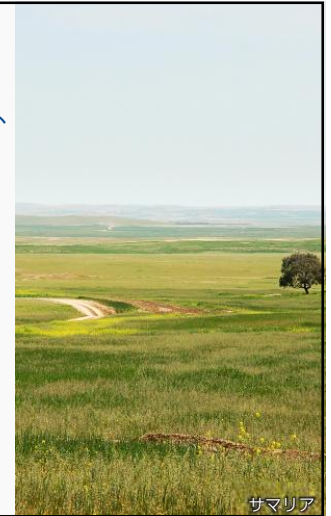
20

①信者の守り 残された民 エレ40:6～7

そこでエレミヤは、ミツパ*にいるアヒカムの子ゲダルヤのところに行って、彼とともに、その地に残された民の間に住んだ。

野にいた軍の高官たちとその部下たちはみな、バビロンの王がアヒカムの子ゲダルヤをその地の総督にして、バビロンに捕らえ移されなかった男、女、子どもたち、その地の貧しい民たちを彼に委ねたことを聞いた。

*“見張り場”…同地名は複数。場所是不明。南王国の北部。エルサレムの近郊か。



サマリア

21

①信者の守り ゲダルヤの家臣 40:8

そして彼らはミツパにいるゲダルヤのもとに来た。ネタンヤの子イシュマエル、カレアハの子ヨハナンとヨナタン、タンフメテの子セラヤ、ネトファ人エファイの子ら、マアカ人の子エザンヤ、そして彼らの部下たちであった。

■残された者たちは、バビロンの王が立てた、総督ゲダルヤの下に集結。



サマリア

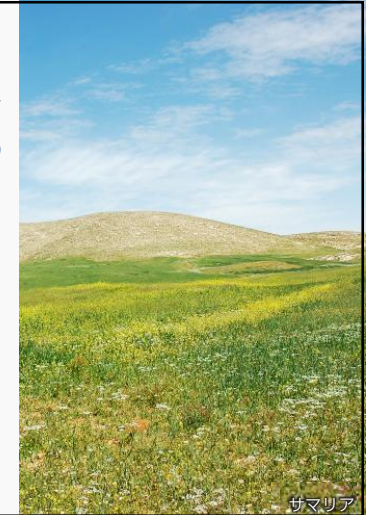
22

①信者の守り 主への誓い エレ40:9

シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤは、彼らとその部下たちに誓った。「カルデア人に仕えることを恐れてはならない。この地に住んで、バビロンの王に仕えなさい。そうすれば、あなたがたは幸せになる。」

■ゲダルヤの命令は、
エレミヤの一連の預言とも一致。

➡甘んじて主の裁きを受ける者には、
祝福と守りがある



サマリア

23

①信者の守り 総督の任務 40:10

この私は、見よ、ミツパに住んで、私たちのところに来るカルデア人の前に立とう*。あなたがたは、ぶどう酒、夏の果物、油を収穫して器に納め、自分たちが手に入れた町々に住むがよい。」

*ゲダルヤが、バビロニアとの仲介役に。



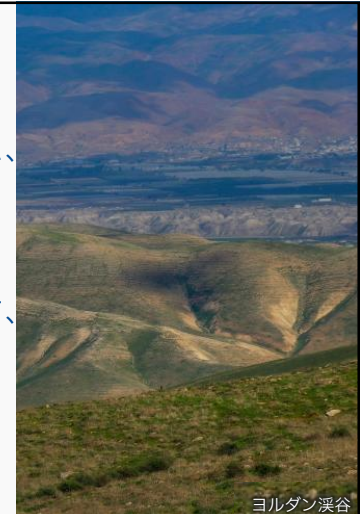
24

①信者の守り 一時の平穏 40:11～12

モアブや、アンモン人のところや、エドムや、あらゆる地方にいたユダヤ人*もみな、バビロンの王がユダに人を残したこと、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤを彼らの総督に任命したことを聞いた。

そこで、ユダヤ人はみな、散らされていたすべての場所からユダの地に帰って来て、ミツパのゲダルヤのもとに行き、非常に多くのぶどう酒と夏の果物を収穫した。

*近親の周辺諸国に逃れていたユダヤ人



25

**③不信仰者への裁きは終わらない エレミヤ書40:13～41:18**

26

②続く裁き 不穏の兆候 40:13～14

さて、野にいたカレアハの子ヨハナンと、軍のすべての高官たちは、ミツパのゲダルヤのもとに来て、彼に言った。

「あなたは、アンモン人*の王バアリスがネタンヤの子イシュマエル*を送って、あなたを打ち殺そうとしているのをご存じですか。」しかし、アヒカムの子ゲダルヤは、彼らの言うことを信じなかった。

*ロトの子孫。歴史的にイスラエルと敵対

*“ヤハウェに与えられた”の“神は聞く”
アブラハムとハガルの子孫…アラブ人



27

②続く裁き 総督への具申 40:15

カレアハ*の子ヨハナン*は、ミツパでひそかにゲダルヤに話して言った。「では、私が行って、ネタンヤの子イシュマエルを、だれにも分からないように打ち殺しましょう。どうして、彼があなたを打ち殺し、あなたのもとに集められた全ユダヤ人が散らされ、ユダの残りの者が滅びてよいでしょうか。」

*“禿げ”

*“ヤハウエが恵みを施された”



サマリア

28

②続く裁き 諫めた総督 エレ40:16

しかし、アヒカムの子ゲダルヤは、カレアハの子ヨハナンに言った。「そんなことをしてはならない。あなたこそ、イシュマエルについて偽りを語っているからだ。」

■イシュマエルのルーツを知っていたら…。
見た目だけで深みのないゲダルヤの信仰。



サマリア

29

②続く裁き イシュマエル 41:1

ところが第七の月に、王族の一人、エリシャマ*の子ネタンヤ*の子イシュマエル*は、王の高官と十人の部下とともに、ミツパにいるアヒカムの子ゲダルヤのもとに来て、ミツパで食事をともにした。

*“私の神は聞いてくださった”

*“ヤハウエから与えられた”

*“神は聞く”

■神の祝福を多く受けながら、主に背き逆らうのが、イシュマエルの本質。



サマリア

30

②続く裁き 謀反 エレ41:2～3

ネタンヤの子イシュマエルと、彼とともにいた十人の部下は立ち上がって、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤを剣で打ち殺した。イシュマエルは、バビロンの王がこの地の総督にした者を殺した。

ミツパでゲダルヤと一緒にいたすべてのユダの人たちと、そこに居合わせたカルデア人の戦士たちを、イシュマエルは打ち殺した。

■総督も護衛のバビロンの兵士たちも殺害。
主とバビロンの王への反逆でもある。



サマリア

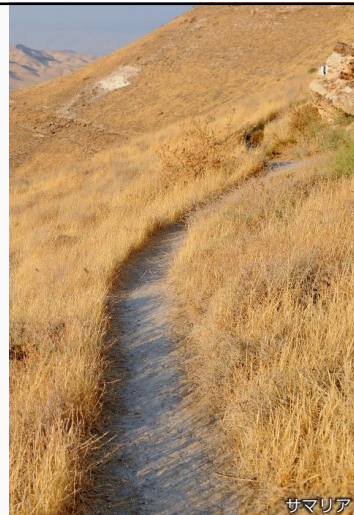
31

②続く裁き 嘆きの80人 41:4～5

ゲダルヤが殺された次の日、まだ、だれもそれを知らなかったとき、**シェケム**、**シロ**、**サマリア***から八十人の者がやって来た。彼らはみな、ひげを剃り、衣を引き裂き、身に傷をつけ、穀物のささげ物や乳香を手にして*、【主】の宮に持って行こうとしていた。

*かつての北王国の主要な町々。

*嘆きと悔い改めの姿勢を示して…、
しかし、都には神殿も神の栄光もない。



サマリア

32

②続く裁き 騙し討ち 41:6～7

ネタンヤの子イシュマエルは、彼らを迎えにミツパを出て、泣きながら歩いて行った。そして、彼らに出会ったとき、「アヒカムの子ゲダルヤのところにおいでください」と言った。

彼らが町の中に入ったとき、ネタンヤの子イシュマエルと、彼とともにいた部下たちは、彼らを殺して穴の中に投げ入れた。

■涙の裏に隠した殺意をもって近づいた。



サマリア

33

②続く裁き 貪欲 41:8

彼らのうちの十人がイシュマエルに、「私たちが殺さないでください。私たちには、小麦、大麦、油、蜜など、畑に隠されたものがありますから」と言ったので、彼は、彼らをその仲間とともに殺すのをやめた。

■イシュマエルの裏切りは、
彼自身の貪欲な性質から出たもの。



サマリア

34

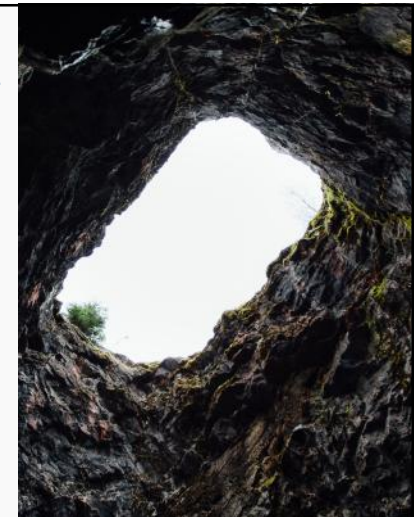
②続く裁き 穴 エレ41:9

イシュマエルが、ゲダルヤの指揮下にあった人々を打ち殺し、その死体すべてを投げ入れた穴*は、**アサ王***がイスラエルの王バアシャに備えて作ったものであった。ネタンヤの子イシュマエルはそれを、殺された者で満たした。

*兵站のための貯蔵庫か？

*南王国初期の善王。

北王国と激しく対立。



35

②続く裁き 捕囚 エレ41:10

イシュマエルは、ミツパにいた民の残りの者たち、すなわち王の娘たち、および親衛隊の長ネブザルアダンがアヒカムの子ゲダルヤに委ねた、ミツパに残っていたすべての民を捕らわれの身とした。ネタンヤの子イシュマエルは彼らを捕囚にして、アンモン人のところに渡ろうとして出発した。

■残された者たちは、近親の民族によって捕囚の身に!!



サマリア

36

②続く裁き 追撃 エレ41:11~12

しかし、カレアハの子ヨハナンと、彼とともにいた軍のすべての高官たちは、ネタンヤの子イシュマエルが行ったすべての悪を聞くと、部下をみな連れて、ネタンヤの子イシュマエルと戦うために出て行き、ギブオンにある大池のほとりで彼を見つけた。

■ヨハナンもここだけ読めば信仰者だが…。

➡真の信仰者はこの場面には登場しない



ヨルダン川

37

②続く裁き 解放 41:13~15

イシュマエルとともにいたすべての民は、カレアハの子ヨハナンと、彼とともにいるすべての高官を見て喜んだ。

こうして、イシュマエルがミツパから捕らえて来た民のすべては身を翻し、カレアハの子ヨハナンの側についた。

ネタンヤの子イシュマエルは、八人の者とともにヨハナンの前から逃れ、アンモン人のところへ行った。

■趨勢を見て動く、日和見な民の姿が…。



死海のほとり

38

②続く裁き 南下 エレ41:16~17

ネタンヤの子イシュマエルがアヒカムの子ゲダルヤを打ち殺した後、カレアハの子ヨハナンと、彼とともにいたすべての高官たちは、ネタンヤの子イシュマエルから取り返したすべての残りの民、すなわちギブオンから連れ帰った勇士たち、戦士たち、女たち、子どもたち、および宦官たちを連れて、ミツパからエジプトに行こうとして、ベツレヘムの傍らにあるゲルテ・キムハムへ行き、そこにとどまった。



ベツレヘム近郊

39

②続く裁き 恐怖の下で 41:18

バビロンの王がこの地の総督としたアヒカムの子ゲダルヤを、ネタンヤの子イシュマエルが打ち殺したため、カルデア人を恐れたからである。

■総督を殺したイシュマエルの行為は、バビロニアへの明白な謀反。

→とばかりを受けるのを恐れた



40



41

まとめ エレミヤとゲダルヤの違いは？

■表面的には、どちらも信仰者に見えるけれど…

①信じる者は、
なお守られる

…エレミヤは、主に忠実に仕え続け、
捕囚から解放されて自由を得た

→自分と同胞の罪を深く自覚

②不信仰者への裁きは
終わらない

…ゲダルヤが、イシュマエルの謀反を
見過ごした、危機意識の欠如。

→自分と同朋の罪の認識の浅さ

あなたは、どちらに立っている？

42

適用 私たちの運命を決める、罪の自覚

■エレミヤとゲダルヤの運命の境目は、罪の自覚の深さ。

■地上の教会には、よい麦と毒麦が混ざっている。
世の終わりが近づくほど、混沌は増すと主イエスは宣言。

■大難難時代の警告は、予兆として産みの苦しみの時代にも…。
「そのとき多くの人がつまずき、互いに裏切り、憎み合います。
また、偽預言者が大勢現れて、多くの人を惑わします。不法が
はびこるので、多くの人々の愛が冷えます。マタ24:10～12」

罪の自覚の深まりが、停滞の時代を生き抜く力になる

43

適用 罪の自覚の浅さがもたらす罪

- 自分と他者の罪の自覚の浅さがもたらす問題がある。
➡ 地域教会のトラブルの大きな原因の一つ
- そこまでのことはないだろう。〇〇〇がまさか…。
➡ ことごとく裏切られてきた現実が!!
- ダビデ、ソロモンさえ、重い罪を犯した。
使徒パウロは、使徒ペテロの過ちを厳しく指摘。

私たち人間の罪の自覚が深く求められ続けている

44

適用 罪の自覚を深めるとは？

- 滅びに至る罪を認め、ただ福音を信じて救われた。
➡ 信仰の成長は、主を信じ、御霊に委ね続けてもたらされる
- 成長と共に深められるのが、自分と他者の罪の自覚。
➡ 自分にはどうしようもない、ただ主に委ねるしかない。
- 罪の自覚の深まりが、さらなる信仰の成長をもたらす。
➡ 罪の自覚が深い人ほど、主の恵みを多く受けとっていく

罪の自覚が深まるほど、信仰は堅く守られ、恵みは増す

45

「自分の感受性くらい」 茨城のり子

ぱさぱさに乾いてゆく心を
ひとのせいにはするな
みずから水やりを怠っておいて

気難しくなってきたのを
友人のせいにはするな
しなやかさを失ったのはどちらなのか

苛立つのを
近親のせいにするな
なにもかも下手だったのはわたくし

初心消えかかるのを
暮らしのせいにはするな
そもそもが
ひよわな志にすぎなかった

駄目なことの一切を
時代のせいにはするな
わずかに光る尊厳の放棄

自分の感受性くらい
自分で守れ
ばかものよ

46

★ 自分の信仰くらい、自分で守れ ★

- 自分の信仰の未熟さ、自分自身の信仰の後退は、
誰のせいにもできないこと。
- 同時に覚えるべきは、
自分の信仰を守る力は、私たちにはないということ。
私たちは、自分と他者の罪を直視させられ、打ち碎かれる。
- ただ信じて救われた私たちは、
ただ信じ続けて、主に守られ、主に育まれていく。

主に依り頼んで、主の証人として立てられ続けて行こう

47

てん どう わたし つみ
「天のお父さま。私たちの罪をゆるしてください。

わたし かみ みこ しゅ
私たちは、神の御子、主イエス・キリストが、

わたし つみ あがな じゅうじか し
①私たちの罪を贖うために十字架で死なれ、

はか ほうむ
②墓に葬られ、

みっかめ ふっかつ しん
③三日目に復活されたこと、を信じます。

ていたい じだい しゅ しんらい もの しゅ まも ささ
停滞の時代にも、主に信頼する者を主が守り支えてくださいます。

つみ つ う くだ み わたし しゅ あお み
罪を突きつけられ、打ち砕かれた身で、私たちは主を仰ぎ見ます。

しゅ み つよ しゅ しょうにん つか
主がこの身を強めてください。主の証人として遣わしてください。

しゅ な いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」